



オスマン家は元々アナトリア半島の一部にいた一族だったのがどんどん強大化して、やがて王朝を建てたんですね。東ローマ帝国を滅ぼした後でエジプトも併合して、東地中海一帯を支配する大帝国になるんです。エジプトを併合した時、エジプトで保護されていた最後のカリフをイスタンブールまで連行して、部屋の中に閉じ込めてしまいました。後になって、オスマン帝国の皇帝スルタンが、カリフという宗教指導者も兼任する形になったんです。

たとえるなら、織田信長が朝廷から天皇を誘拐して城の地下牢に閉じ込め、新しく織田朝（おだちょう）というのを造って信長天皇を名乗る、みたいなことですよ。ムチャクチャやったわけですね。

オスマン帝国は東ローマ帝国を倒した後、その首都コンスタンチノーブルを自らの首都イスタンブールに変え、中東世界のほとんどを領土にしました。今アラブの国は 22 あるでしょ。これはほとんど元オスマン帝国ですよ。

当然 エルサレムを中心とする約束の地もオスマン帝国の一部になりました。しかし、エルサレムを支配しても、オスマン帝国はエルサレムを遷都しなかったんです。コンスタンチノーブルを取った時には「ここ便利やからな」ということで首都にしたけど、エルサレムを取ったからといって、そこに王宮を移したり、首都にすることはなかった。

では、オスマン帝国が中東一帯を治めていた約 400 年間、エルサレムに最も多くの人口を誇っていたのは誰でしょう？ ユダヤ人なんです。

ユダヤ人は、エルサレムを中心とする約束の地の支配者がローマ人であっても、アラブ・イスラム帝国であっても、十字軍であっても、オスマン帝国であっても、散らされても散らされても、いつの間にか戻って来て、そこに住みついて共同体を再生してるんですね。

エルサレムだけじゃないんですよ。約束の地のあちこちに共同体を造ってるんです。

昔、池上彰（いけがみ あきら）さんが中東問題の解説で、「ユダヤ人はローマに滅ぼされて 2000 年間、この約束の地・パレスチナの土地を留守にしていた。留守なので、そこにアラブ人・パレスチナ人たちが住み着いた。ところが 20 世紀になって 2000 年後にやって来て、『先祖はここに住んでたんだから、おまえら出て行け！』ということで、武力で彼らを追い出して、それが難民化しているのがパレスチナ問題の大きな形です」みたいな説明されたんですが、ウソですからね。間違いですよ。

ユダヤ人は AD70 年にローマに滅ぼされてから約 2000 年間、散らされても散らされても、ほぼほぼ、ほぼほぼですよ、いつもそこに住んでいたんです。

いつも約束の地に住んでいた唯一の民族、それがユダヤ人なんですね。

オスマン帝国の成立は後々、第一次世界大戦以降の中東問題を考える時に、すごい鍵となる帝国なので、どこかに留め置いていただいたらなと思います。

同時に、ユダヤ人たちは約束の地から離れたことはほぼほぼなかったんだ、ということも覚えておいていただいたら結構かなと思います。

またこの『ごうちゃんねる』でお目にかかりたいと思います。それまで皆さん、お元気でいてください。それでは皆さん、さよなら！